

補助金診断説明会 記録概要

平成25年8月30日(金)13:30～14:30 会議室1

市長挨拶

- ・人口減少期に入り、高齢化も進むなか財政も厳しくなっていく。行政はスキルを上げていくため、事業仕分けに取り組んだ。職員のやる気を引き出すための諸施策も進めている。そして、組織が独創的であるようにと心がけている。
- ・事業仕分けで補助金は扱わないとしたが、何らかの検討は必要であることから作ったのがこの取組みであり、検討委員会である。
- ・補助金は104あり、500万円以上で20ある。全体で約5億円になる。
- ・この取組みは、削減ありきではない。活きた税の執行をするため、各団体の成果、在り方を見つめていただく。3年とか5年で再度取り組むことになるかもしれないし、その時には白紙となる事業もあるかもしれない。
- ・今回は、再構築の機会と位置付けている。

市より取組みの説明

- ・5億438万円が平成25年度当初予算における補助金の合計額、これは一般会計178億3,200万円全体予算の2.8%に相当する。
- ・対前年度比では減額となっているものの、補助自体が減となっているのではなく個々の内容の変更によるところが大きい。
- ・大枠での増要因としては、区一括交付金への統合、耐震工事補助金などとなる。
- ・これまでの補助金の見直しに係る取組みとしては、平成12年3月に答申を受けた補助金等検討委員会の検証を踏まえて平成13年度予算で10%削減を行った。
- ・新しい公共を構築していくとき、これからは住民に近いところでの力がなければ成り立っていかなくなる。補助金の見直しというと削減という受け止めが多いかもしれないが、そうではない。削減ありきではなく、盛り上げていくことを主眼としている。
- ・検討委員会からも、活動を市民に積極的に伝える工夫を求められている。
- ・公開診断に選ばれた事業は、子どもたちの世代の育成、震災の経験から市民に期待される機能などの視点からの活動が選ばれている。活動を示す機会としていただきたい。
- ・これまでの予算査定は、担当課と財政課との一方的なやり取りで行われるので、団体の思いは伝わってこない。どうか、担当課とよく話し合って、しっかりと意見を伝えていただきたい。
- ・あれもこれも、から、あれかこれかの時代になっている。新しい公共のために担当課と話をしていただきたい。検討委員会では、判断の基準を定めている。このような視点で、活動を見直し、担当課とも話し合いを進めていただければと考えている。



参加者質疑

- ・ 集まった私たち補助団体は、何をすればよいか、何を求められているのか。
お集まりの団体以外にも多くの団体があり、中には、補助金を交付されていることが負担になり、消化するための事業になる場合もある。また、市も補助金を渡すことで責任を果たしたとして自己完結しがちな面もある。こうした状態を、これまで一度もなかった一からの見直しを試みようというのが今回の取組みの趣旨である。また、市だけで進めては意味がない。まず、こうした取組みをやりますとお知らせしなければ、意味がないためお集まりいただいた。
- ・ 委員会は市のことを知っている人でないと、実情を知らない人では判定できるのか疑問である。
補助額については、委員会で扱うことではなく基本的には、財政、市長が決めるべきことであると認識している。今回の委員の方々は、それぞれ専門的な、また各分野で代表的な活動しておられる方たち。行政職員ではたどりつかない発想や、想定し得ない提言をいただける方々である。こうしたところから、補助金の基本原則的なものを決めていこうというもの。
- ・ 使い道に困っている団体があると言ったが、そのような団体が存在すること自体が問題だ。行政の方で見直さないといけないことで、こちら側からやれることではない。
- ・ どう使うと本当に効果があるのかを考えるうちに一年たってしまうので、一年交代の役職であると単に過ぎていってしまうというのは実際に経験からもある。私たちが勉強しないといけないし、市に聞いて、他の区ではどうやって使っているのかなど分らなければ聞かないといけないのではないかと。
- ・ 公開診断に選定された理由を知りたい。前向きに捉えればよいか。
活動の実情をお示しいただきたい。行政は小さく、活動は盛り上げていくというのが方針である。当日は、これは聞いていなかったとならないように、予めお伺いしたい要点などはお示しさせていただく。